

WCS用稲極短穂茎葉型品種「つきことか」が那須地域で栽培可能であることを実証

要約

那須地域の気候における極晩生の稲 WCS 専用品種「つきことか」の栽培実証を行った。晩生の「つきすずか」と収量を比較した結果、同等であった。また、熟期が「つきすずか」よりも遅く、11 月中下旬の収穫作業が可能となるため、作期分散のために有効な品種であることが確認できた。

○ 展示のねらい

「つきことか」は茎葉多収で牛の嗜好性が高いが、「つきすずか」より登熟が遅い極晩生であるため県北では栽培されていない。しかし近年の夏季の高温により、県北でも栽培の可能性が高まっているため、晩生の「つきすずか」と比較するとともに、栽培実証を行うことを目的とした。

【栽培概要】

	つきことか	つきすずか
播種日	令和 7（2025）年 5 月 13 日	令和 7（2025）年 4 月 30 日
栽植密度	50 株/坪	50 株/坪
収穫日	令和 7（2025）年 10 月 31 日	

○ 主な成果

表1. 生育調査結果

品種	移植日	出穂日	稈長(cm)	草丈(cm)	穂数	茎数
つきことか	6月6日	10月1日	138.1	162.5	9	21
つきすずか	6月7日	9月4日	122.1	149.5	11	17

表2. 収量調査結果

	水分 %	乾物率 %	原物収量 (kg/10a)	乾物収量 (kg/10a)	穂重比 (乾物%)
つきことか	64.9	35.1	5,538	1,944	6.9
つきすずか	62.9	37.1	5,615	2,083	20.9



稈長及び草丈は、「つきすずか」と比較して、「つきことか」が高い数値だった。10a 当たりの乾物重量は、ほぼ同等の結果だった。乾物全量に占める穂重比は、「つきことか」が 6.9%、つきすずかが 20.9%だった。サイレージの成分分析値について、「つきすずか」は、粗蛋白質・非繊維性炭水化物が高く、「つきことか」は、中性デタージェント繊維・酸性デタージェント繊維が高い結果となり、熟期の違いによる影響が見られた。

収穫日におけるそれぞれの熟期は「つきことか」は糊熟期、「つきすずか」は黄熟期であったことから収穫時期をずらすことによる作期分散のために有効な品種であると考えられた。

○ 今後の方向性

本成果をホームページ等で周知して普及を図る。また、今後はさらに栽培の事例数を増やすと共に草丈が高いことによる倒伏性の解消のための栽培方法を検討する。

実施機関：那須農業振興事務所経営普及部

実施場所：那須塩原市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315